

Citation: Koh H, Robinson PG. Occlusal adjustment for treating and preventing temporomandibular joint disorders. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 1. Art. No.: CD003812. DOI: 10.1002/14651858.CD003812.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 13 November 2002

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 顎関節症の処置に、咬合調整は長く使われて来た。咬合調整が、顎関節症治療に効果的であるかどうかは、明らかではない。

目的: 成人の顎関節症治療及び予防における咬合調整の効果を評価する。

検索戦略: 我々はCochrane Oral Health Group's Trials Register(～2002年4月); the Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) (The Cochrane Library Issue 2, 2002); MEDLINE(1966年～2002年4月8日); EMBASE(1980年～2002年4月8日)を検索し、このレビューに重要と思われる個々の雑誌をハンドサーチした。

顎関節症治療のレビューと、検索した報告の参考文献から追加報告を特定した。言語による規制はしなかった。未発表の報告または抄録は、SIGLE databaseから検討した。

選択基準: ランダム化、準ランダム化比較試験による成人の顎関節症の咬合調整とプラセボまたは無治療の比較。アウトカムは、痛み、頭痛、動きの制限などの症状を包括的に測定されたものであった。

データ収集と分析: 二人のレビューワー、Holy Koh(HK)とPeter G Robinson(PR)によってデータは独立して抽出し、複製された。著者はランダム化、中止例、質の評価の詳細について連絡をとった。The Cochrane Oral Health Groupの統計学的解析はランダム効果を用いた相対リスク、異質性の検出に用いられた(P<0.1)。

主な結果: 660以上の試験が初期検索で特定された。6の試験は(392人の結果による)、レビューに含まれた。発表された報告の中から、症候をベースにしたアウトカムの治療の試験は抽出された。症候の発生率のデータは予防の試験において抽出された。咬合調整と対照群の間にどんな差も認められなかった。

レビューアの結論: 咬合調整が顎関節症を予防したり、治療したりするかというランダム化比較試験からのエビデンスは欠如している。咬合調整は顎関節症の予防、管理において推奨されない。今後の試験では、顎関節症の評価では標準化された診断基準と、アウトカム計測が使われるべきである。

(翻訳 木森久人・監訳 湯浅秀道; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。